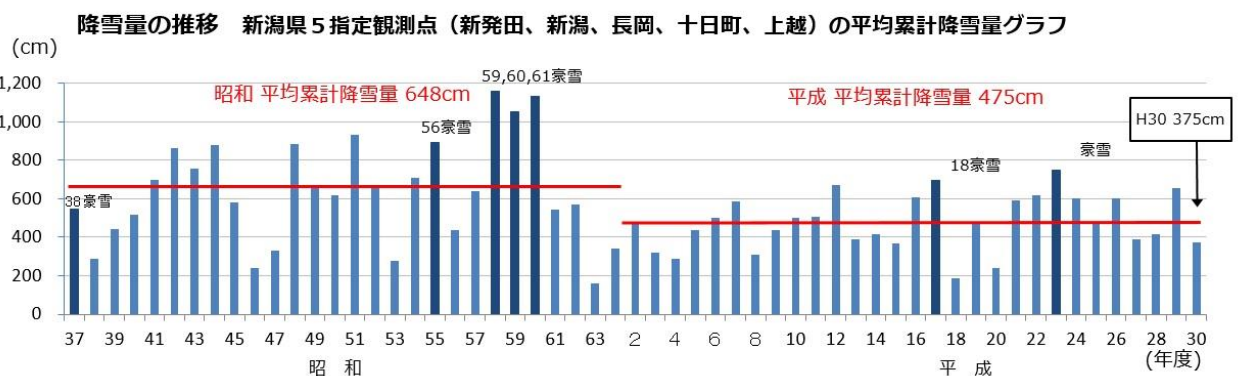


## 地球温暖化を抑止する対策を求める緊急決議

二年連続暖冬が続き、雪不足が続いています。長野県白馬村は、スノースポーツを産業資源の柱として位置づけ、海外からのスノースポーツ愛好者の受け入れの取り組みを実施し始めた矢先に、雪不足が続き、将来への不安を抱えていると聞きます。

全国勤労者スキー協議会に参加しているスキーマーとスノーバーダーは、この雪不足に将来への不安を感じています。新潟県は、昭和と平成の平均降雪量を比較すると、平成は、昭和に比べて 173 cm も降雪量が減っていると報告しています。



私達は、子や孫の時代でも、この日本で、自然の雪でスノースポーツを楽しめることを願っています。そのためには、地球温暖化を抑止するために二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を抑制する必要があると考えています。ところが、エネルギー白書 2019によると、日本のエネルギー政策は、石炭など化石燃料を利用した火力発電に軸足を置き、日本は、二酸化炭素を排出し続けています。

スペイン・マドリードでの国連気候変動枠組み条約第 25 回締約国会議 (COP) の開催期間中、日本は国際的環境 NGO「気候行動ネットワーク」から 2 回も不名誉な「化石賞」を授与されました。まさに、日本は、地球温暖化対策に非協力的な国と名指されたのです。

私たちは、日本が、使用済み核燃料の安全な処理の定まっていない原発で無く、再生可能エネルギーを活用した地球温暖化抑止のためのエネルギー政策を発表し、地球温暖化抑止の先頭に立つことを強く要求します。